
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2007年第38週
(9月17日～9月23日)

- * 2007年9月26日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「腎症候性出血熱」も掲載しています。

2007年9月27日発行

編集・発行

東京都医師会感染症予防検討委員会
東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 患者報告数 2007年38週

分類	疾病名	東京都分(報告週)					全国分(診断週)	
		35週	36週	37週	38週	年累計	38週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ベスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	77	71	68	37	1884	173	9836
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *							
三類	コレラ					2		10
	細菌性赤痢	2	3	4		66	3	373
	腸管出血性大腸菌感染症	9	12	11	5	390	94	3273
	腸チフス	1	1			9	4	34
	パラチフス					4		13
四類	E型肝炎					2		41
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎				1	16	2	114
	エキノкокクス症					3		13
	黄熱							
	オウム病					1		25
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							3
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					2		3
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病					2		96
	デング熱	3		4		17	9	68
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ #							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						3	49
	日本脳炎							1
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							2
	マラリア		1	2		18	1	36
	野兔病							
ライム病		1			3	1	8	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症	1	1	3	2	40	9	449	
レプトスピラ症			1		3		17	
ロッキー山紅斑熱								

分類	疾病名	東京都分(報告週)					全国分(診断週)	
		35週	36週	37週	38週	年累計	38週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	4	4	3	1	130	5	570
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	1		1		29	1	166
	急性脳炎 **			1	1	17		174
	クリプトスポリジウム症					1		6
	クロイツフェルト・ヤコブ病				2	10		108
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1				4	1	74
	後天性免疫不全症候群	11	6	6	10	355	22	1042
	ジアルジア症		1			12	1	36
	髄膜炎菌性髄膜炎				1	2		13
	先天性風しん症候群							
	梅毒	6	3	5	4	108	9	494
	破傷風					1	1	69
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
バンコマイシン耐性腸球菌感染症					11	1	54	
指定	インフルエンザ (H5N1)							
2007/9/26集計								

* 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

** ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

2007年14週集計分より「高病原性鳥インフルエンザ」から「鳥インフルエンザ」に変更

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 37件

肺結核26件、その他11件で、推定感染地は国内17件、中国1件、不明19件であった。年齢群は、20歳代9件、30歳代8件、40歳代3件、50歳代5件、60歳代3件、70歳代6件、80歳代3件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 5件

患者3件、無症状病原体保有者2件で、血清型・毒素型は、O157 VT2 2件、O157 VT1・VT2 1件、O157毒素型不明 1件、O145 VT1 1件であった。年齢群は、10歳未満2件(うち5歳未満1件)、10歳代1件、20歳代1件、40歳代1件であった。

〈四類感染症〉

A型肝炎 1件

推定感染地はインドネシアで、飲食物による経口感染が疑われている。

レジオネラ症 2件

いずれも肺炎型で、年齢群は60歳代1件、70歳代1件。1件では循環式風呂との関連が疑われている。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 1件

腸管アメーバ症で、感染地、感染経路ともに不明であった。

急性脳炎 1件

5歳未満で、病原体不明であるが、突発性発疹との関連が疑われている。

クロイツフェルト・ヤコブ病 2件

いずれも孤発性プリオン病古典型であった。

後天性免疫不全症候群 10件

無症候キャリア6件、AIDS 2件、その他2件であった。推定感染地は国内9件、ミャンマー1件で、推定感染経路は性的接触9件(同性間6件、異性間3件)、不明1件であった。

髄膜炎菌性髄膜炎 1件

推定感染地は国内で、感染経路は不明であった。60歳代。

梅毒 4件

早期顕症梅毒Ⅰ期2件、早期顕症梅毒Ⅱ期1件、無症候梅毒1件で、推定感染経路はすべて性的接触(異性間3件、同性間1件)であった。

五類定点把握対象疾患 患者報告数 2007年38週

疾病名	2007年				4週合計	年累計
	35週	36週	37週	38週		
RSウイルス感染症	5	11	8	4	28	565
インフルエンザ	3	2	1	14	20	43,808
咽頭結膜熱	29	28	36	35	128	2,343
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	88	112	140	104	444	8,806
感染性胃腸炎	482	465	596	494	2,037	27,248
水痘	37	49	48	56	190	6,856
手足口病	157	164	179	131	631	3,411
伝染性紅斑	15	35	34	22	106	2,550
突発性発しん	103	107	119	121	450	3,400
百日咳	6	7	7	6	26	67
風しん	0	1	0	1	2	29
ヘルパンギーナ	191	163	120	97	571	6,336
麻しん(成人麻しんを除く)	1	1	2	1	5	288
流行性耳下腺炎	28	27	26	27	108	1,510
不明発しん症	13	12	12	18	55	501
MCLS	4	1	1	3	9	88
急性出血性結膜炎	1	4	5	2	12	55
流行性角結膜炎	19	24	24	20	87	691
細菌性髄膜炎	0	3	1	0	4	24
無菌性髄膜炎	3	3	0	0	6	44
マイコプラズマ肺炎	1	2	5	3	11	133
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1	0	0	0	1	11
成人麻しん	2	1	0	1	4	253
2007/9/26集計						

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、33週以降やや増加傾向にあったが、37週よりも若干減少した。
- ・手足口病の定点当たり報告数は、再び減少に転じた。
- ・百日咳の定点当たり報告数は、若干減少したが、依然高いレベルにある。実数では6人、うち20歳以上は1人であった。

(定点医療機関からのコメント)

世田谷区保健所管内定点医療機関

- ・インフルエンザ:A型3名(6歳、6歳、6~11ヶ月)
- ・インフルエンザ:A型2名(6歳、4歳)。近隣小学校や保育園でも発生しているらしい。

多摩小平保健所管内定点医療機関

- ・インフルエンザ:A型3名(2歳、3歳、学童)。今年はインフルエンザが早い印象があります。
- ・インフルエンザ:A型2名(成人、学童)で、2名は同一家族。

五類定点把握対象疾患 患者報告数【年齢階級別】 2007年38週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん
～5か月					10	1			1
～11か月	1	1			55	6	6	1	54
1歳	3		2	1	72	6	36	1	56
2歳		1	3	5	46	10	29		6
3歳		1	4	12	39	8	20	5	
4歳		2	2	16	37	9	16	2	1
5歳			5	16	40	3	9	6	
6歳		3	5	7	24	5	6	3	2
7歳		1	3	6	13	4	1		1
8歳		1	3	12	31	1	3	1	
9歳			4	5	9	1	1		
10～14歳		2	2	9	27	1	2	2	
15～19歳				4	15				
20～29歳			2	11	76	1	2	1	
30～39歳									
40～49歳		1							
50～59歳									
60～69歳		1							
70～79歳									
80歳以上									
合計	4	14	35	104	494	56	131	22	121
先週比	-4	13	-1	-36	-102	8	-45	-12	2

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	百日咳	風しん	ヘルパン ギーナ	麻しん (成人麻しん を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血性 結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
～5か月			2						
～11か月			12	1				3	1
1歳		1	22		1			4	
2歳			13		3		1	2	1
3歳			15				1	3	
4歳	2		15		6		1	1	
5歳	1		5		4	1	2	1	1
6歳			2		1		2	2	
7歳	1		4		1				
8歳								1	
9歳			3		4				
10～14歳			1		3			1	
15～19歳	1		1		1		4		
20～29歳	1		2		3	1	1		
30～39歳							3		
40～49歳							2		
50～59歳							2		
60～69歳									
70～79歳							1		
80歳以上									
合計	6	1	97	1	27	2	20	18	3
先週比	-1	1	-19	-1	1	-3	-4	6	2

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別】2007年38週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田					1		2		1	
中央区					6	1	7			
みなと			5	9	22	1	4		4	
新宿区				3	14	2	3	3	1	
文京				1	2		3		3	
台東				2	12				2	
墨田区	1				7	2	1	1	5	
江東区				3	35	2	8	2	6	
品川区	1			1	31		3	1	3	
目黒区					1	2			2	
大田区			5	4	30	2	21	2	7	3
世田谷	1	5	1	5	10	2	15		6	
渋谷区				2	6		3		3	
中野区				2	29	1	3		3	
杉並			12	6	24	2	2		8	
池袋				1	8	3	1		1	
北区			1	3	11	2			4	
荒川区			1	1	11	1	1		3	
板橋区			1		10				1	
練馬区				7	10	4	3		2	
足立			2	3	14		1		8	
葛飾区				5	14	4	3		4	
江戸川			1	4	10	1	1		5	
西多摩			2	3	17	9	12		4	
八王子		1		8	51	6	5	2	7	3
南多摩				3	15	1	4	4	5	
町田		3	1	17	21	3	1	4	2	
多摩立川			1		10	1	1		2	
多摩府中				1	14	2	5	1	11	
多摩小平	1	5	2	10	48	2	13	2	8	
島しょ							5			

東京都合計	4	14	35	104	494	56	131	22	121	6
定点当り報告数	0.03	0.05	0.24	0.71	3.38	0.38	0.90	0.15	0.83	0.04

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS	合計
千代田		1							5
中央区						1			15
みなと		1					1		47
新宿区	1	1				3			31
文京		2				4			15
台東		1							17
墨田区		2		1					20
江東区		1		2					59
品川区		8		1			1		50
目黒区									5
大田区		8		1					83
世田谷		9		3	1				58
渋谷区		1							15
中野区		2							40
杉並		2		1					57
池袋		2		2			1		19
北区		3							24
荒川区		2							20
板橋区		2		1			1		16
練馬区		2		1		3			32
足立		3		2	1	1	1		36
葛飾区		3	1	7				2	43
江戸川		4		1			1		28
西多摩									47
八王子		6		1		1	8		99
南多摩		4		1					37
町田		7					4		63
多摩立川									15
多摩府中		3		1		1			39
多摩小平		17		1		6		1	116
島しょ									5

東京都合計	1	97	1	27	2	20	18	3	1,156
定点当り報告数	0.01	0.66	0.01	0.18	0.05	0.54	0.12	0.02	

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別・定点当たり】 2007年38週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田					0.33		0.67		0.33	
中央区					3.00	0.50	3.50			
みなと			0.83	1.50	3.67	0.17	0.67		0.67	
新宿区				0.50	2.33	0.33	0.50	0.50	0.17	
文京				0.33	0.67		1.00		1.00	
台東				0.67	4.00				0.67	
墨田区	0.33				2.33	0.67	0.33	0.33	1.67	
江東区				0.75	8.75	0.50	2.00	0.50	1.50	
品川区	0.17			0.17	5.17		0.50	0.17	0.50	
目黒区					0.33	0.67			0.67	
大田区			0.56	0.44	3.33	0.22	2.33	0.22	0.78	0.33
世田谷	0.13	0.31	0.13	0.63	1.25	0.25	1.88		0.75	
渋谷区				0.50	1.50		0.75		0.75	
中野区				0.33	4.83	0.17	0.50		0.50	
杉並			2.00	1.00	4.00	0.33	0.33		1.33	
池袋				0.20	1.60	0.60	0.20		0.20	
北区			0.33	1.00	3.67	0.67			1.33	
荒川区			0.50	0.50	5.50	0.50	0.50		1.50	
板橋区			0.17		1.67				0.17	
練馬区				1.40	2.00	0.80	0.60		0.40	
足立			0.40	0.60	2.80		0.20		1.60	
葛飾区				1.25	3.50	1.00	0.75		1.00	
江戸川			0.20	0.80	2.00	0.20	0.20		1.00	
西多摩			0.40	0.60	3.40	1.80	2.40		0.80	
八王子		0.10		2.00	12.75	1.50	1.25	0.50	1.75	0.75
南多摩				0.75	3.75	0.25	1.00	1.00	1.25	
町田		0.33	0.25	4.25	5.25	0.75	0.25	1.00	0.50	
多摩立川			0.20		2.00	0.20	0.20		0.40	
多摩府中				0.10	1.40	0.20	0.50	0.10	1.10	
多摩小平	0.17	0.36	0.33	1.67	8.00	0.33	2.17	0.33	1.33	
島しょ							5.00			

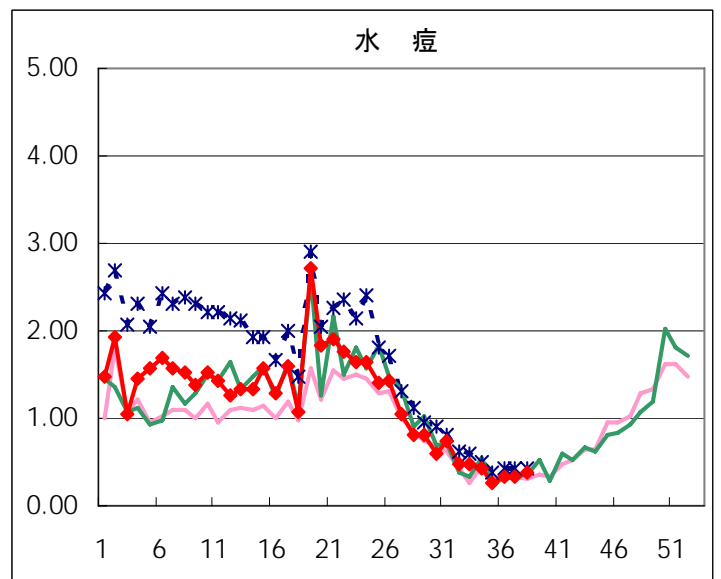
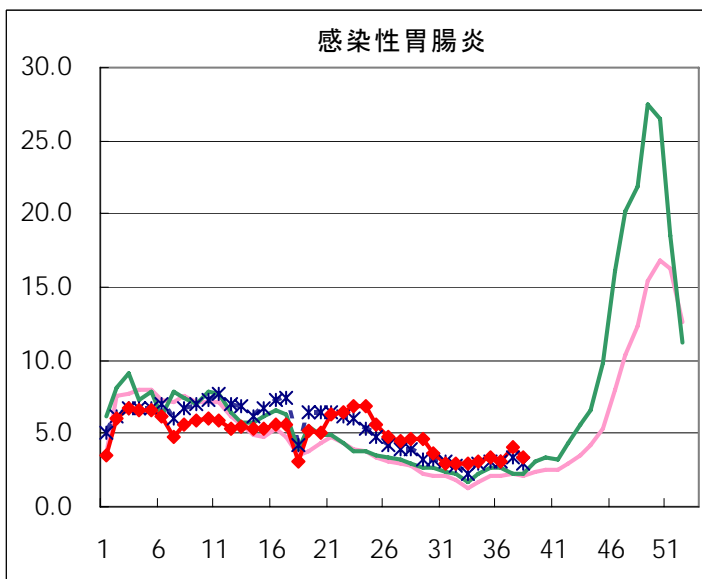
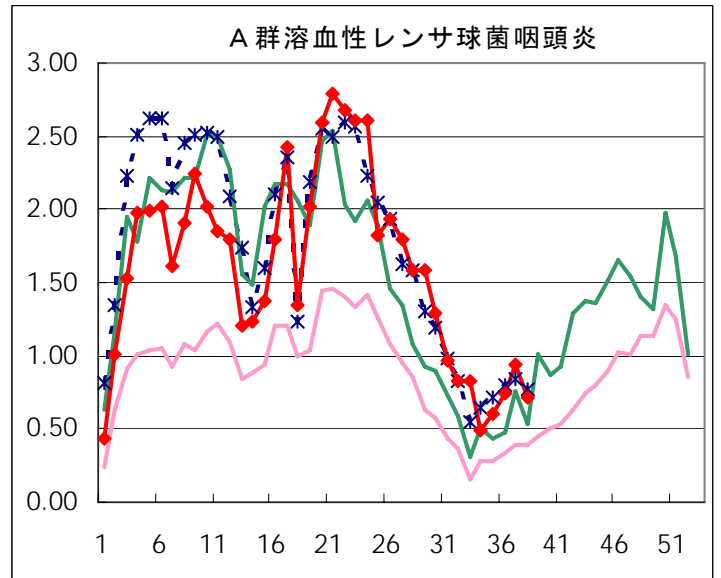
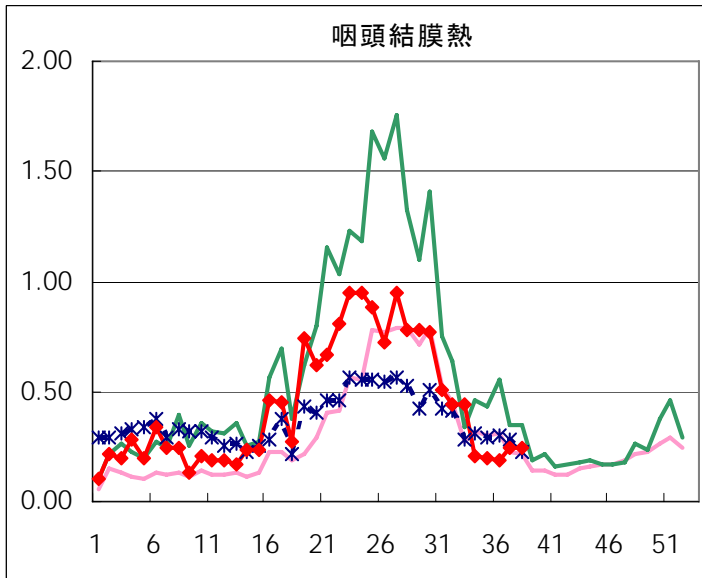
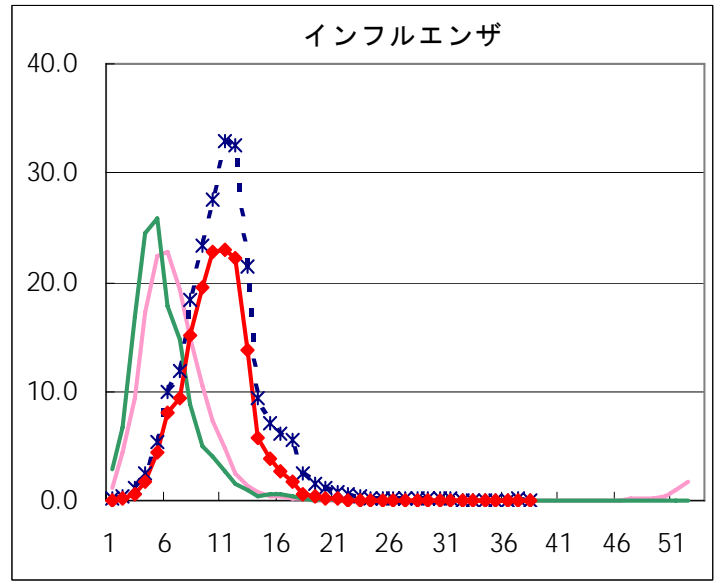
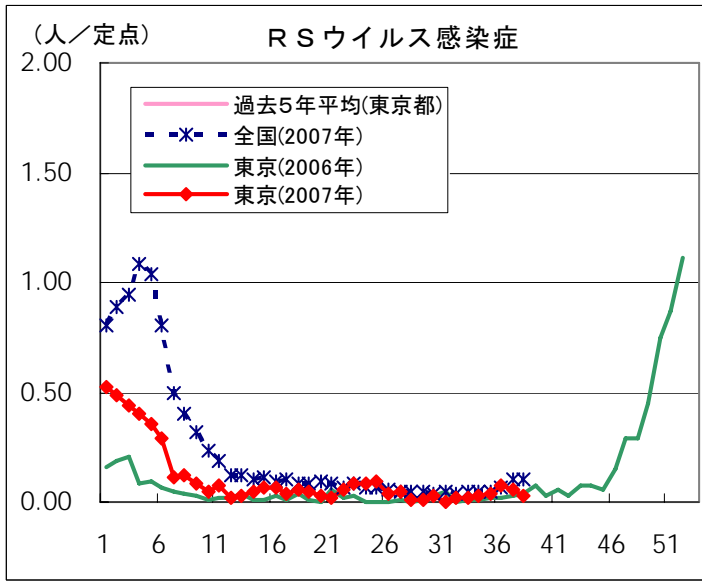
東京都合計	4	14	35	104	494	56	131	22	121	6
定点当り報告数	0.03	0.05	0.24	0.71	3.38	0.38	0.90	0.15	0.83	0.04

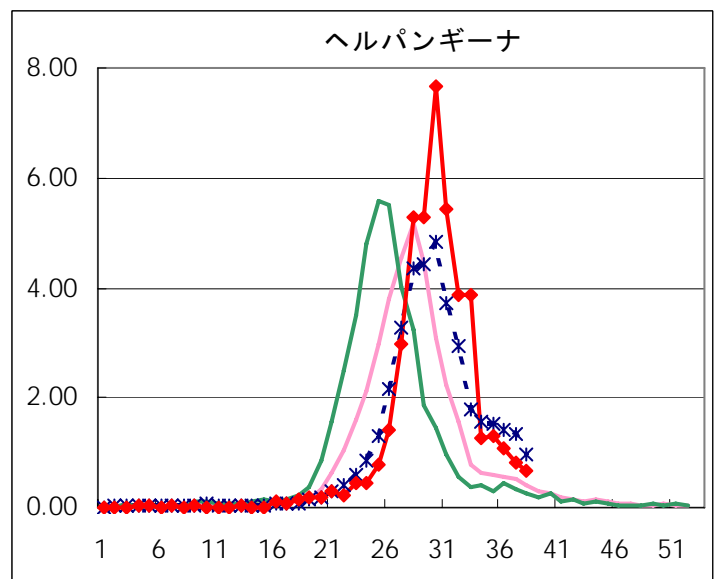
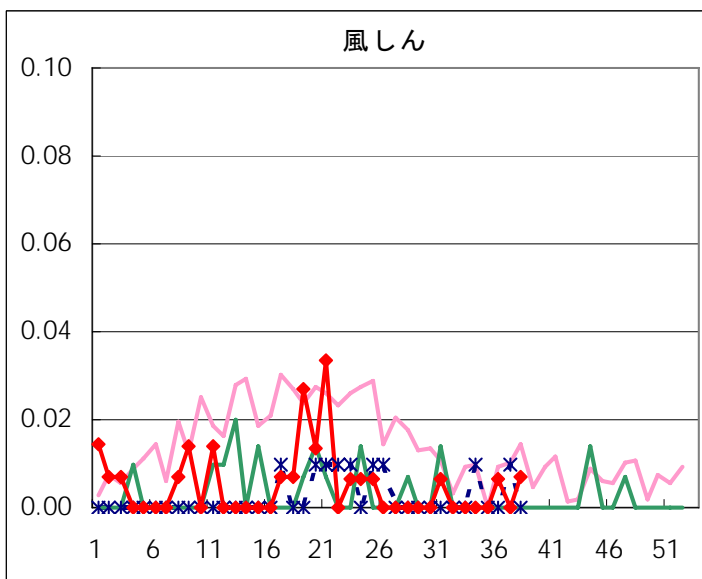
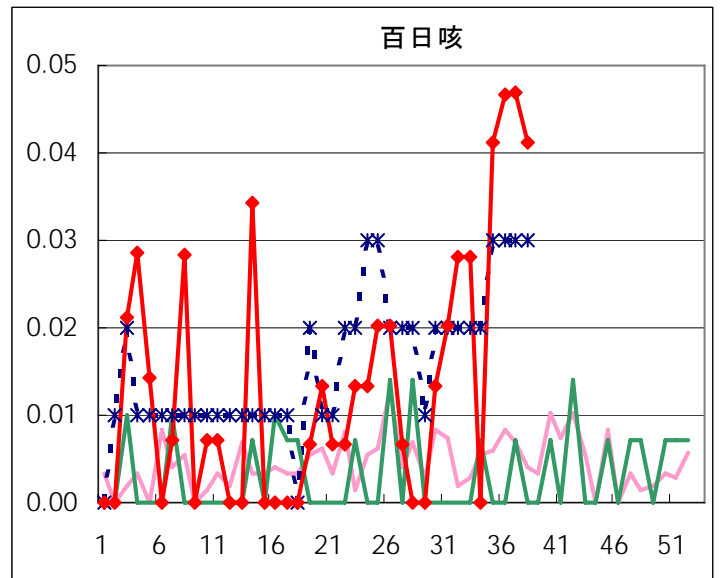
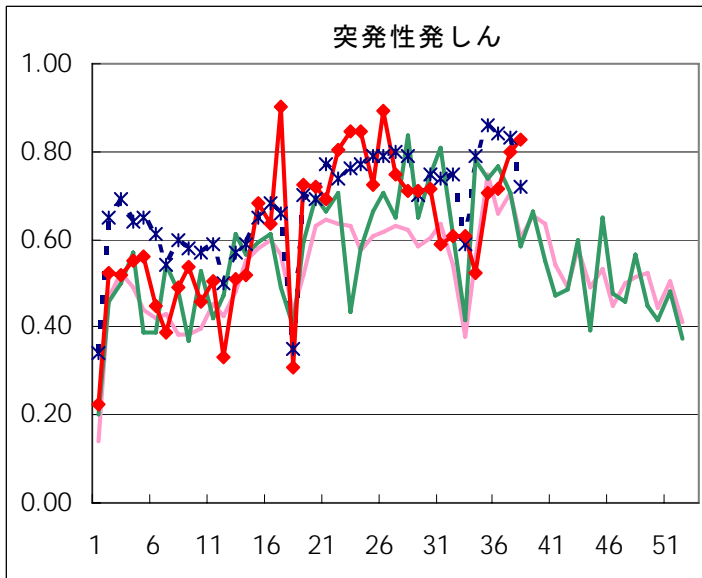
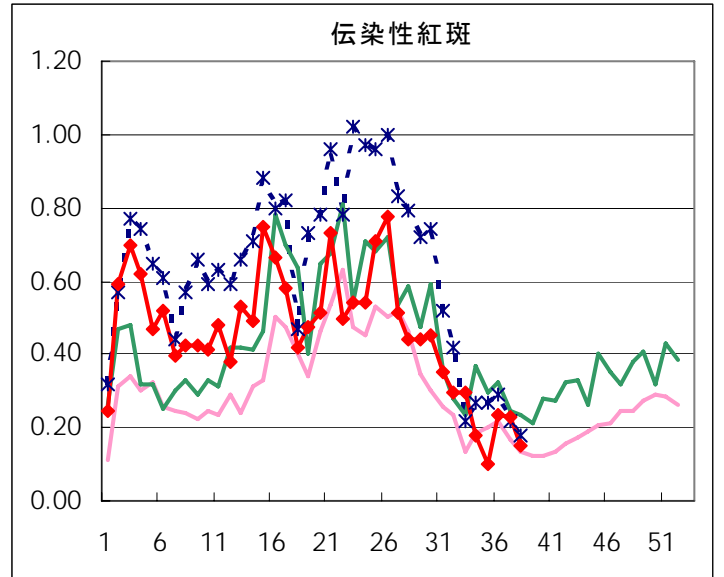
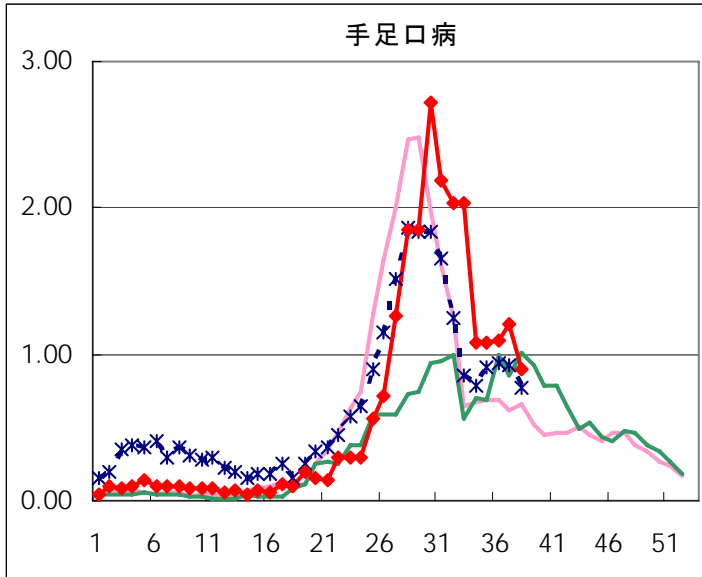
	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
千代田		0.33						
中央区						1.00		
みなと		0.17					0.17	
新宿区	0.17	0.17				1.50		
文京		0.67				4.00		
台東		0.33						
墨田区		0.67		0.33				
江東区		0.25		0.50				
品川区		1.33		0.17			0.17	
目黒区								
大田区		0.89		0.11				
世田谷		1.13		0.38	0.50			
渋谷区		0.25						
中野区		0.33						
杉並		0.33		0.17				
池袋		0.40		0.40			0.20	
北区		1.00						
荒川区		1.00						
板橋区		0.33		0.17			0.17	
練馬区		0.40		0.20		1.50		
足立		0.60		0.40	0.50	0.50	0.20	
葛飾区		0.75	0.25	1.75				0.50
江戸川		0.80		0.20			0.20	
西多摩								
八王子		1.50		0.25		0.50	2.00	
南多摩		1.00		0.25				
町田		1.75					1.00	
多摩立川								
多摩府中		0.30		0.10		0.50		
多摩小平		2.83		0.17		3.00		0.17
島しょ								

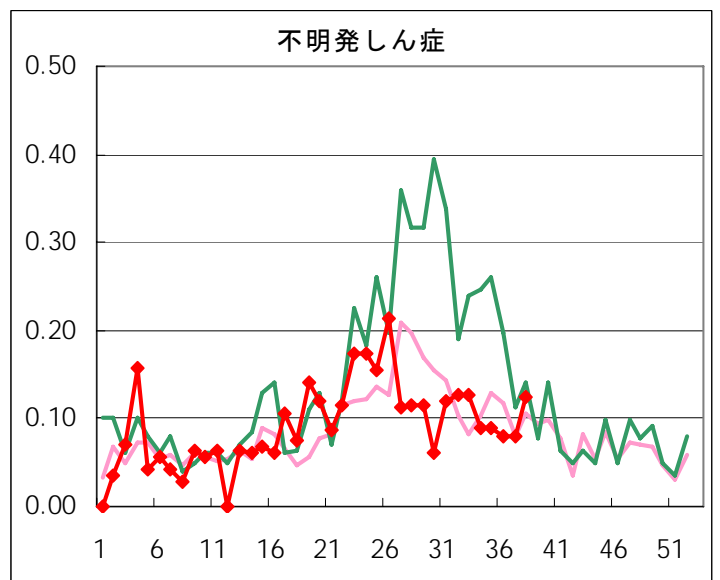
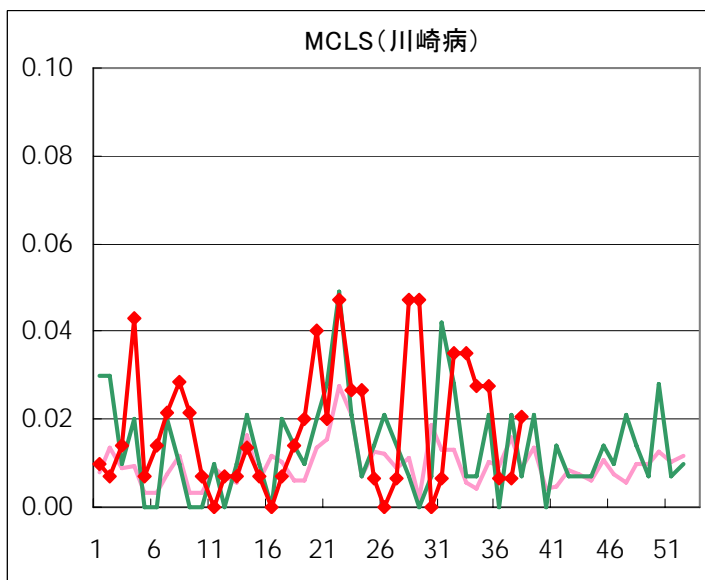
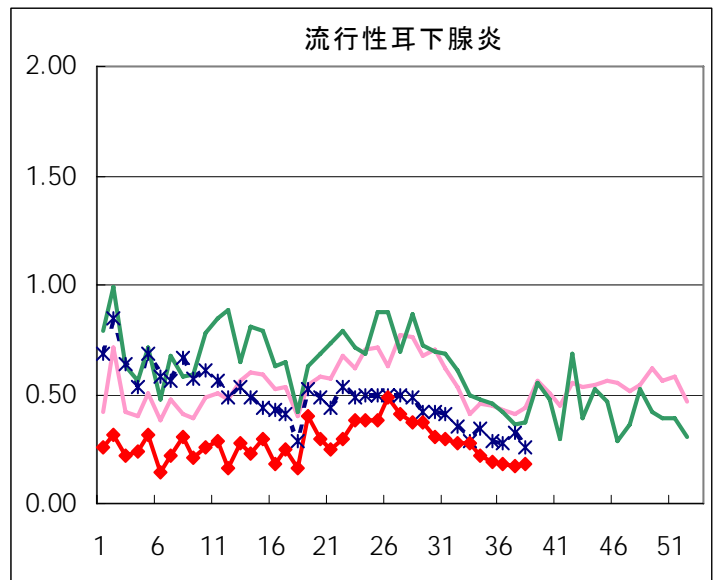
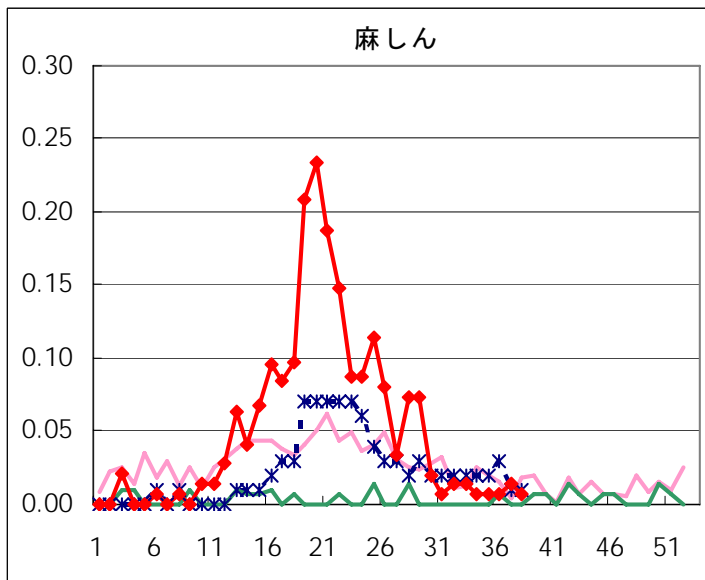
東京都合計	1	97	1	27	2	20	18	3
定点当り報告数	0.01	0.66	0.01	0.18	0.05	0.54	0.12	0.02

五類定点把握対象疾患 患者報告数【推移グラフ】 2007年38週現在

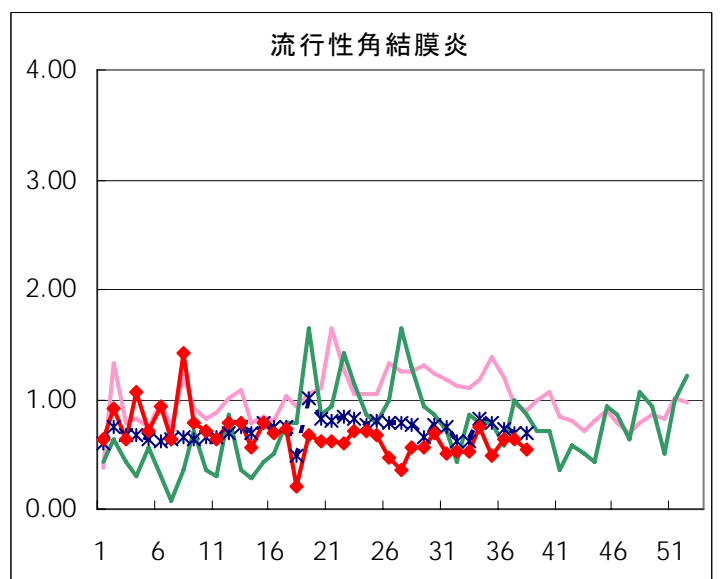
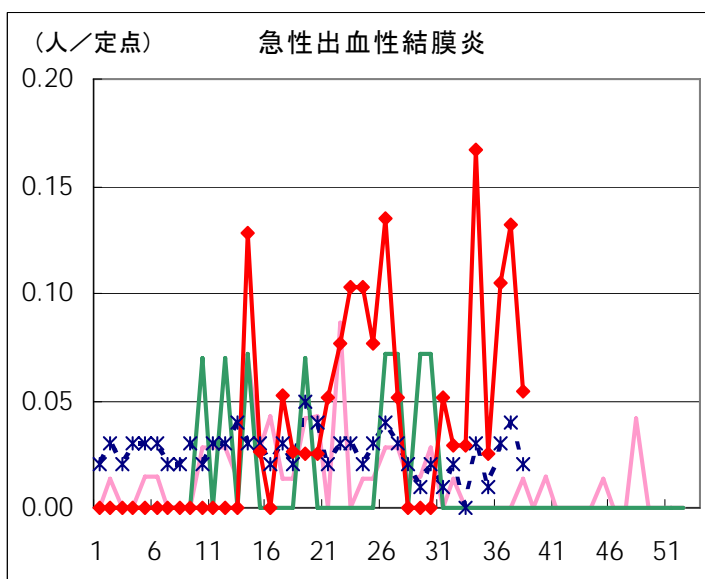
◆ 小児科・インフルエンザ定点



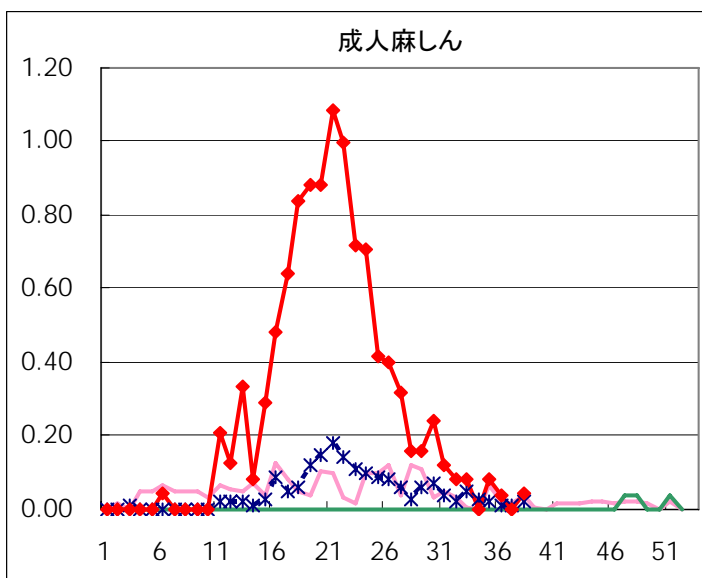
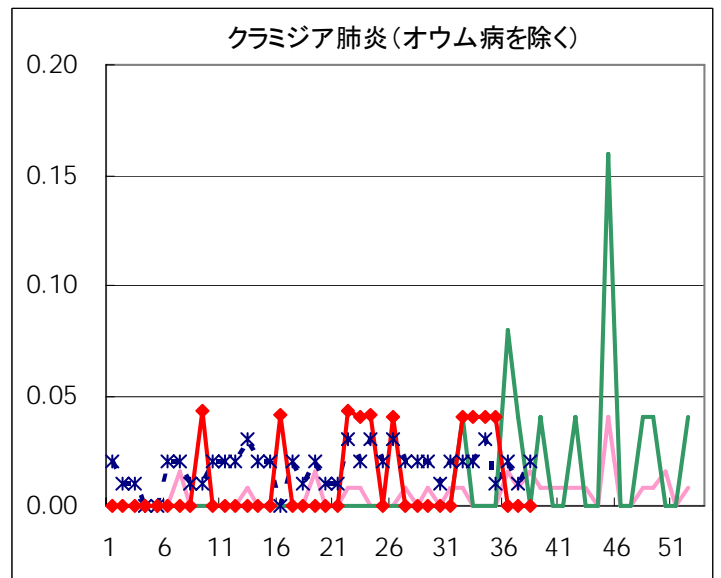
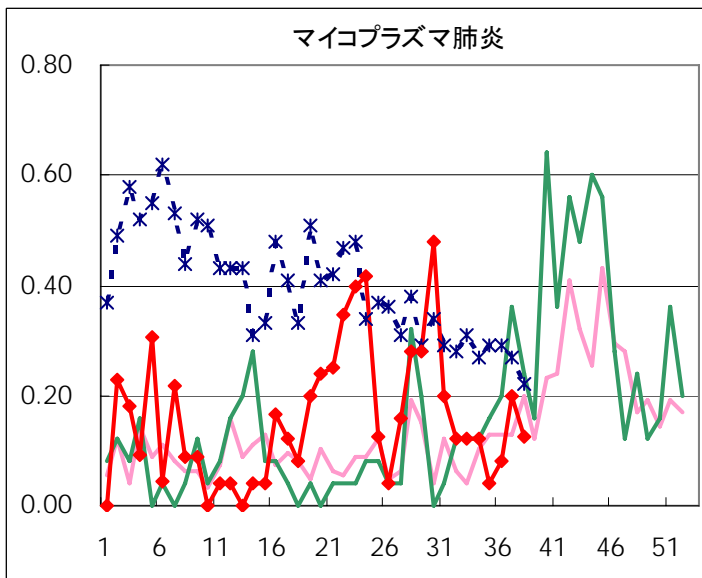
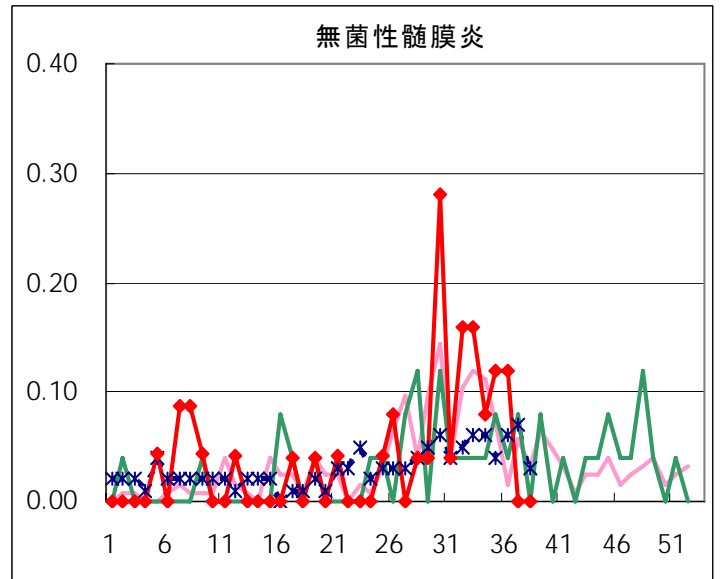
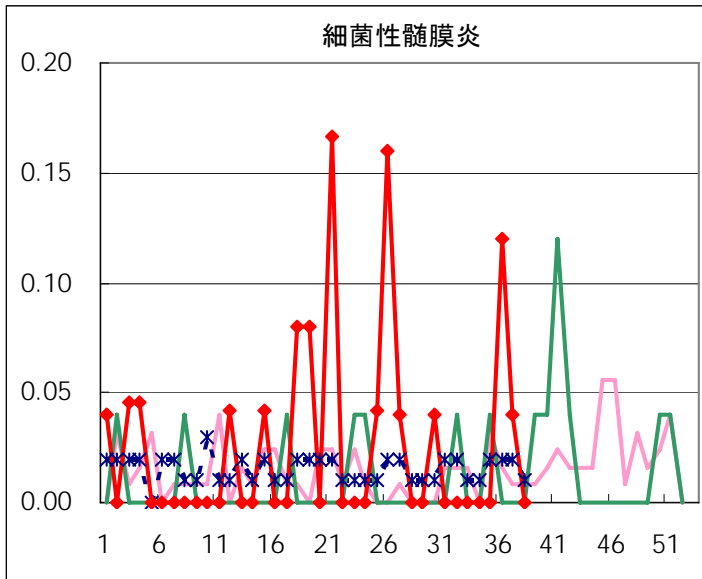




◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



疾患別の定点医療機関数(週単位報告分)			
定点種別	疾患	定点医療機関数	報告医療機関数
インフルエンザ	インフルエンザ	290	282
眼科	急性出血性結膜炎	39	37
	流行性角結膜炎		
基幹	細菌性髄膜炎	25	24
	無菌性髄膜炎		
	マイコプラズマ肺炎		
	クラミジア肺炎		
	成人麻疹		
小児科	上記を除く疾病	150	146

病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
8/1	溶血性レンサ球菌咽頭炎	0	菌株(咽頭由来)	A群溶血性レンサ球菌 T-12型	血清型別
8/8	溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	菌株(咽頭由来)	A群溶血性レンサ球菌 T-6型	
8/9	無菌性髄膜炎 胃腸炎	13	髄液	エンテロウイルス	遺伝子
8/24	溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	菌株(咽頭由来)	A群溶血性レンサ球菌 T型別不能	血清型別
9/6	髄膜炎	5	髄液	エンテロウイルス	遺伝子
9/7	インフルエンザ	39	咽頭拭い液	ライノウイルス86型	
9/8	伝染性紅斑	8	咽頭拭い液	ライノウイルス パルボウイルス	
9/8	突発性発しん	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペス6型ウイルス	
9/8	不明発しん症	19	咽頭拭い液	風しんウイルス	
9/10	インフルエンザ	31	咽頭拭い液	ライノウイルス87型	
9/10	不明熱	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型 風しんウイルス(ワクチン接種)	
9/10	発熱 ヘルパンギーナ	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス7型	
9/11	不明発しん症	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
9/11	不明発しん症	10M	咽頭拭い液	ライノウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	
9/12	ウイルス性肺炎	1	鼻汁	エンテロウイルス	
			直腸拭い液	エンテロウイルス	
9/13	発熱 髄膜炎	1M	髄液	エンテロウイルス	
9/13	急性咽頭炎	7	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
9/14	発熱	1	咽頭拭い液	アデノウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	
不明	百日咳疑い	0	菌株(後鼻腔由来)	百日咳菌	

週別検査状況 2007年30週～37週

検出病原体・抗体		2007年							合計	
		30	31	32	33	34	35	36		37
ウイルス	アデノ	2	5	4	5	1	1		1	19
	ライノ	3	3	1	3			1	4	15
	ポリオ						1			1
	コクサッキーA群				3	2	1			6
	コクサッキーB群									
	エコー				8	4		1		13
	エンテロ71			1	3			1		5
	その他のエンテロ	16	16	19	7	5	5	5	7	80
	単純ヘルペス		1			1		1		3
	水痘・帯状疱疹							1		1
	ヘルペス6/7	3	4	1	5	7	2	2	6	30
	EB	1		1	1	1	1	3		8
	サイトメガロ		1		2		1	1		5
	ムンプス			1						1
	麻疹			1				1		2
	風疹								2	2
	パルボB19								1	1
	RS	1				1	1			3
	ノロ									
	ロタ							1		1
	インフルエンザAH1									
	インフルエンザAH3			1					2	3
	インフルエンザB									
デング							1		1	
その他のウイルス	8	2	3	1	1	4			19	
細菌	カンピロバクター			2						2
	サルモネラ									
	腸管出血性大腸菌									
	その他の腸管系病原菌									
	溶血性レンサ球菌									
	その他の細菌									
その他の病原体		2								2

臨床診断名別検査結果 2007年30週～37週

臨床診断名 検出病原体	インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	ヘル パン ギー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	合 計
搬入検体数	21	38	32	21	107	1		5	6	6	1	14	4		3		127	
アデノ	1	5	4	1				3							1		4	19
ライノ	2	1	4		1						1	2			1		3	15
ポリオ		1																1
コクサッキーA群			1	1	1					2							1	6
コクサッキーB群																		
エコー					12												1	13
エンテロ71					2					1							2	5
その他のエンテロ	3	12	6	1	34	1		5	3		2						13	80
単純ヘルペス					1												2	3
水痘・带状疱疹しん												1						1
ヘルペス6/7		1			3			1	2		7						16	30
EB					1										1		6	8
サイトメガロ			2		1												2	5
ムンプス													1					1
麻しん															1		1	2
風しん												1					1	2
パルボB19											1							1
RS			2														1	3
ノロ																		
ロタ				1														1
インフルエンザAH1																		
インフルエンザAH3	2		1															3
インフルエンザB																		
デング																	1	1
その他のウイルス		8	10	1														19
カンピロバクター				2														2
サルモネラ																		
腸管出血性大腸菌																		
その他の腸管系病原菌																		
溶血性レンサ球菌																		
その他の細菌																		
その他の病原体			2															2
備考																		

<感染症豆知識>

腎症候性出血熱

腎症候性出血熱(Hemorrhagic fever with renal syndrom;HFRS)は、齧歯類が媒介するハンタウイルス感染による高熱、出血、腎機能障害を主徴とする人獣共通感染症で、特に中国、韓国、ロシアやヨーロッパ各地で見られる。わが国では1960年代に大阪梅田でドブネズミが感染源と疑われた流行が発生し(「梅田熱」と呼称された)、1970年代に大学や研究機関の実験動物施設で実験用ラットを介した流行が発生した。全国の港湾施設で捕獲したドブネズミなどにハンタウイルスに感染している疫学報告がある。HFRSウイルスは6つの血清型/遺伝子型が報告され、媒介動物と疾患の重篤度には強い相関があり、ハンタン型(死亡率5~10%)、ドブラバ型(5~10%)、ソウル型(1%程度)、プーマラ型(ヤチネズミ、1%以下)、その他詳細が判明していないアムール型、サーレマ型がある。保菌動物の齧歯類は高い中和抗体価を産生するが症状は示さず、ウイルスを終生持続し、ヒトは感染ネズミによる咬傷、尿等の接触、また空気感染で感染する。ヒト-ヒト感染は見られない。感染後2~4週の潜伏後、軽症型では、軽度の発熱、蛋白尿、血尿などが診られる。重症型では、突然の発熱と3~10日間の稽留とその後の解熱。蛋白尿(第6病日頃ピーク)、白血球減少(第3病日)の後増加(第6病日)、血清GOT、GPT、LDH、CPK値の上昇。点状出血(上口蓋粘膜、軀体部)、乏尿/利尿期と腎不全状態となる。ショック症状は10~15%程度。RT-PCR、FA法、ELISA、ペアー血清での抗体価上昇にて診断。対症療法と安静が実情。リバビリンが有効な報告がある。中国・韓国では不活化ワクチンが製造されている。

(文責・日本大学医学部生物学教室准教授 池田忠生)